

第 14 回視覚科学フォーラム運営委員会議事録（平成 22 年 8 月 26 日）

日時：平成 22 年 8 月 26 日（木）

場所：筑波大学 大学会館第 3 会議室

出席者：田村 弘、深田 吉孝、三好 智満、蟻川 健太郎、今井 啓雄、中谷 敬、河村 悟

欠席者：大黒 浩、畠 義郎、坂口 豊、谷藤 学

議 題

<報告事項>

1. 年会の補助について

●昨年度決定した年会の補助について活用状況の報告があった。

2. 2010 APCV（アジア太平洋視覚会議）プログラム委員について

●佐藤 宏道（阪大、中枢生理）、金田 誠（慶応大、網膜生理）、今井 啓雄（京大、視物質）、今村 一之（前橋工科大、発達・可塑性）の先生方に依頼した。金田委員と今井委員から活動状況の報告があった。

<協議事項>

1. 集会の補助について

●小規模の集会に、補助を行うことになった（下記、お知らせ参照）。

2. 平成 23 年度年会開催地について

●大阪大・生命機能研究科・大澤先生にお願いすることになった。

3. 運営委員・会長改選について（平成 22 年 12 月 31 日付で任期満了）

●大黒 浩（札幌医大）、田村 弘（阪大・生命機能）、畠 義郎（鳥取大・医）、深田 吉孝（東大・院・理）、三好 智満（阪大・医）の各委員（2 期、各 2 年）と会長の河村（1 期、2 年）が任期を迎えるので、現行の方法を踏襲し、会員からのメール投票に基づき、運営委員会で決定することとした。

4. APCV（アジア太平洋視覚会議）

●2011 年 香港 で行われるとの報告があった（追記：2012 年は韓国で開催とのこと）。

5. 視覚科学フォーラム活性化に向けて

●下記の問題点の指摘と対策案が議論された。

現状の認識：参加者数の減少と演題数の減少（資料 1）

目指す将来像：参加者数を増やすとともに、次世代を担ってもらう“若手”に育ててほしい。

そのために、若手（学生さんを含む）の参加者数を増やすことを目指してはどうか。

現状の問題点：発表者の平均年齢が上がっており、学生さんの発表が出来にくい雰囲気がある。

会員・学生が参加する学会・集会が多すぎる。

対策：

1. 1 研究室あたりの発表数が少なくなっている。会員に、学生さんの発表を考慮していただくよう、呼びかける。
2. 来年度、学生さんの発表する機会を増やすための試みを行ってもらう。例えば、発表時間の二分化（例えば 15 分と 30 分とか）、また、若手による企画など。詳細は大澤先生に一任。

3. 主催していただく研究室に、その分野の研究者を中心に出席を呼びかけていただく。
4. 広報活動を行う。各学会ニュースとしてメールを回覧してもらえよう要請する。

以上の運営委員会報告に対して2日目午前のセッション終了後、出席者全員による意見交換会を行った。以下の意見が出された。

- 学生としてはポスター発表が認められると参加しやすいという意見があった。それを可と考える意見と、口頭発表することが意味を持つとの意見があった。
- 発表だけでなく、勉強会としての側面を持つ集会でもあるので、少し領域の外れる分野の先生方の講演を聴く機会を設けて欲しいとの意見があった。その意見を主催される先生に伝言することとした。
- 学生さんを対象とする参加費の援助があればいいが、という意見があった。適切な金額と人数の両方を満たすことはなかなか難しいとの会長からの発言があった。
- 委員の改選前に名簿をきちんとして欲しいとの要望があった。
- 後日報告するとのことであったAPCVへの対応については、プログラム委員の選出の依頼が個人レベルで行われているとのことであるので、視覚科学フォーラムとしての対応はこれまで通りとすることにしました。APCVに関する情報は、大澤会員にお願いして、今後もニュースを流して頂くことになりました。

資料1 視覚科学フォーラム参加者数と講演数の推移

回	年度	開催地	参加者数	講演数	備考
14	2010	筑波大	47	17	
13	2009	鹿児島大	32	22	
12	2008	大阪大	73	24	
11	2007	生理研	*	18	
10	2006	松江	*	*	ACV2006 と共催
9	2005	弘前大	*	35	
8	2004	鳥取大	58	25	
7	2003	大阪大	113	38	
6	2002	慶應・ 埼玉医大	153	講演：31 ポスター：51	慶應国際シンポジウムと共催
5	2001	九州工大	80	17	
4	2000	生理研	77	31	
3	1999	工業技術院／ 筑波	*	49	国際シンポジウム「網膜・視神経の分化と再生」と共催
2	1998	生理研	*	51	
1	1997	生理研	119	31	

* 未確認

お知らせ

視覚科学フォーラムでは、会員へのサポートとして、また、フォーラムの広報活動の一環として、公開の研究会・シンポジウムに少額ですが経済的サポートを行います。この制度は、当面、現会長の任期の間に限るものとし、予告無く終了する場合があります。また、下記のような条件を満たす場合に限りです。

サポートの対象：公開の研究会・集会で、参加者自身による負担以外の支出が必要とされるもの。

サポートの条件：今年度を含み過去5年間の少なくとも1回の視覚科学フォーラム（H22年の場合、第10回～14回）に参加したことがある個人または研究室の主宰者。

サポートの金額：1万円（1個人または1研究室について年度あたり1回、年間総件数5件。年間予算が無くなり次第、終了）。

共催の明示：周知のための案内メールやポスターに、「共催：視覚科学フォーラム」と明示して頂くこと。

サポート希望者は、下記の情報を記入の上、河村（kawamura【at】fbs.osaka-u.ac.jp）まで申請下さい。1週間以内に可否の連絡を致します。また、受領の際は押印または自筆のサインがされた領収証（画像ファイルで可）をお送り頂きます。

申請者氏名：

申請者所属：

サポートを必要とする理由：

研究会・集会の名称：

予定される出席者人数：

申請者の視覚科学フォーラム参加実績：